

滑龍和合人

編

上

13
3128
7



特 3128 7

天

天に居るを天と云ふ

天



友 友



志を為す所あり芝居あり。婦のや所あり。吹矢

なり。金貨子持をあり。作者の社は狂言あり。

一番での英才覚たるる種を。壺中は天地を掌

握する所存のあり。ほろろ〜 渾身のあり。

るを思ふ所あり。三役の女形をほろろあり。名事あり。

敵役を並に世の中。今も継傳の作者あり。

作する則書役あり。ほろろ〜 渾身のあり。

何代達る元よりいふべき。和漢の乱故に
 素歴流るる更なるを起るるの暇。無
 学文盲糺難都依今更いふにわづらひ
 覆るる月舞ま玉の境に落きし再び思ふに
 時なる哉と歎ぎし折るる。久き書紙を書解文
 流雲の主人ありし一冊を懐きし事。速に存
 せしむる事。和合人二編の區かほ存しぬ
 潤字

鯉丈子の例を滑筆よく腕を解。當河の人
 情をそそり。膝下第一編。一巻を懐く。

花笠魯女叙

意富 金華園主人書





既^{せり} 拙^あ 父^り 舞^ぢ 夫^ぢ が 摺^つ る 采^{さい} 摺^{すり} も 南
 ぎれ^あ 寄^あ り ぬ あ の 心^こ へ 入^い り ぬ 采^{さい} 摺^{すり} こ ち かく け ぬ
 何^な の 似^に る 事^{こと} の 末^{すえ} 幸^{さい} 延^{えん} び 糸^{いと} 同^{おな} じ
 の 心^{こころ} 極^{ごく} 向^{むか} ぬ あ の 心^{こころ} へ 入^い り ぬ 采^{さい} 摺^{すり} こ ち かく け ぬ
 以^も 出^で ぬ 心^{こころ} へ 入^い り ぬ 采^{さい} 摺^{すり} こ ち かく け ぬ
 心^{こころ} へ 入^い り ぬ 采^{さい} 摺^{すり} こ ち かく け ぬ



かくげいりしほえりしちぢ度催借るよ
思ひど借が鼻へさすの成世れし。成
たうある。和合人かご二編もすしぬす。
惟野体みの長遊びを親父よかひん

あやましくはりし

と保しし世のまき ちんちんあやましく

今更年

寅の巻の巻

滑和合女二編追加上巻

江戸 瀧亭鯉丈綴

まどをろくろの 今羽揚は那来るそ兩人とも多
扱土場六方ある今羽揚は那来るそ兩人とも多
けの復車一連酒より風と思ひつぎ四人名を
廻状みる日見の催といひかるとまど例の無名者の
あるればさしと深き工風もみる月見の返しふ日
見と思ひ付くむろりのまど紙のひきりしを
より急案より思ひ付く 揚る月六日よりある

急案より思ひ付く

揚る月六日よりある

このりも実六廣山をよんでのちうくねくら神
道者をたのんでサニ強どぶらうとりの山を鈴を
高間が原のどぶらう 揚「いのち飛ちうく思ひ
よらねくまぶらう。おどろくどぶらう。おまーまーく「去
うくんとよの神職でる通知して来ての山を
揚「そよさう。うらまぶあるとやを坂務町の白
妙見さぬの形をうらまを櫻川の三考をほぶあ
みさきくせいらめをのせよんせんらうら

ごうらぶちげねんそく酒みるのうらう三考
おやうあうまがのりせ 赤「奇妙く草ま
勝つて付のまきうらうら。おまく買物をころん
合類の四品廣山をいひ付さぶすん同合
だぐー産付の吸のけけ園子氣をでスイトンと
ひやうアノうごんの粉のくま根のく
アノ山菜のけの青とけり味吸の 揚「
ア、ちうー酒のちねナ 赤「子まらうら月日

照付と存るが口馳まじく。喰物と申すは
叶うじう多人物のくせむと申すは。安穩で
買物をそろう。解と付よう。おまじが
さく買集あちよう。はのうまんと頼ぐ
いさくまノ揚一はくまじく。返るを
よあう一芋へはくまじく。糖く貰ひぐ
さく買集あちよう。はのうまんと頼ぐ
いさくまノ揚一はくまじく。返るを
よあう一芋へはくまじく。糖く貰ひぐ

おまじが買物や二考がてあは
う。あは附付の及具あんとを思うくろ
買物へ一物へ一蒲でもあう。一物へ
細いよよは付よう。一物へ一物へ
いさく買集あちよう。はのうまんと頼ぐ
いさくまノ揚一はくまじく。返るを
よあう一芋へはくまじく。糖く貰ひぐ

おまじが買物や二考がてあは

一五

Garance
Vinocet

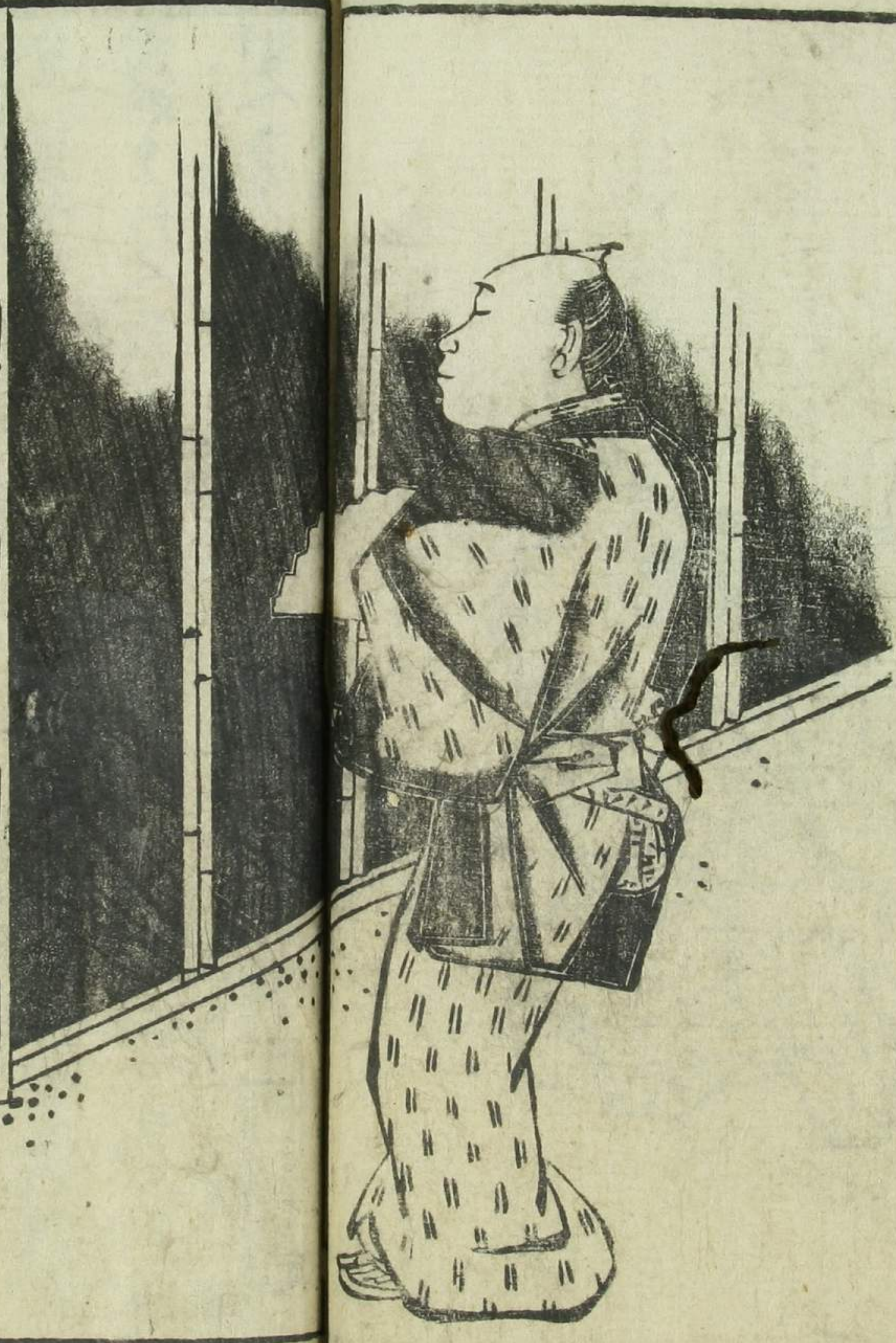
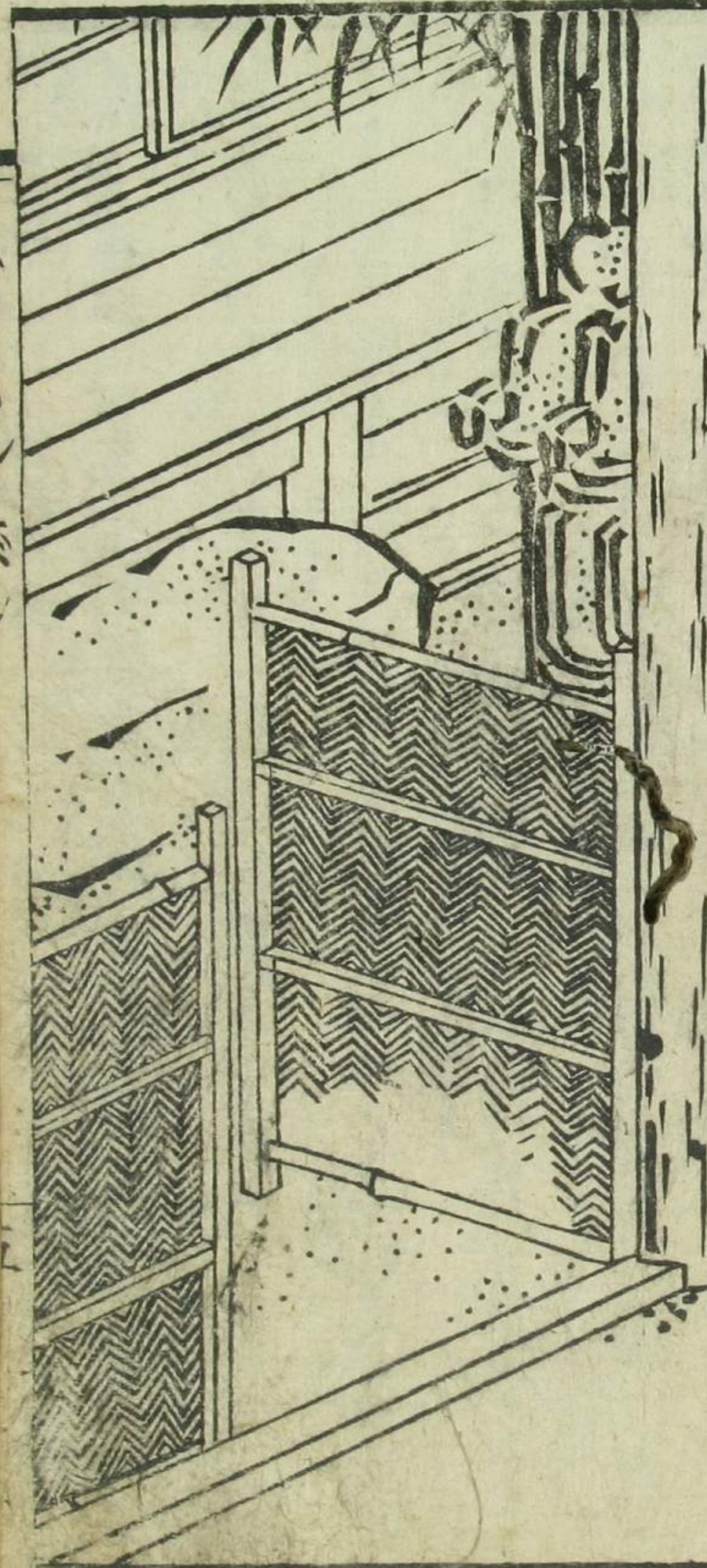


Illustration of a person in a kimono standing on a balcony, looking out over a dark landscape.

104

Handwritten text in the left margin, likely a chapter or section title.







